

(様式2)

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那高等学校

学校番号 49

I 自己評価

1 学校教育目標	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闊達にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する。		
2 評価する領域・分野	◇SSH (スーパーサイエンスハイスクール)		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度からの第Ⅲ期では論理的思考力の育成のため「ディベート」学習を中心に課題研究に重点を置き、指導を進めている。意識調査(理数科全学年)において「科学技術に関する興味・関心・意欲が増した」と85%以上の生徒が回答している。また1年生で、地元の研究所、企業と連携し、データの科学的分析と、英語によるプレゼンテーションの発表と質疑応答を行った。生徒らは、客観的に考える方法と工夫が言語によらず重要であると捉え、英語を使いこなす必要性を再認識した。 学校独自アンケート(理数科1年生)ではSSH指定校であることが本校理志望した「第一の理由」または「理由の一つだった」と回答した生徒の割合がこの3年間80%と高い割合である。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇「論理的思考育成プログラム」により思考、判断及び表現における客観性と論理性を育成する。 ◇課題研究を通して課題発見能力と問題解決能力、独創性を育成する。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 理数科部内にSSH実行委員会を置く。 SSH実行委員会は必要に応じて、各分掌、教科、学年と連携する。 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) コミュニケーション能力の育成 (2) 地方の高校で可能な国際性の育成 (3) 課題研究	生徒意識調査 連携先・保護者・教員へのアンケート 運営指導委員会による指導		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
(1) スーパーサイエンスAにおいて、探究のスキルの向上と論理的思考能力を育成した。 (2) 課題研究において、探究的活動と問題解決能力、課題発見能力の育成、成果の普及の実践を図った。 (3) スーパーサイエンスBにおいて、科学への興味関心の喚起を図った。 (4) ssENAにおいて科学とコミュニケーションに対する興味と関心を深める活動を行った。	①「論理的思考育成プログラム」による客観性と論理性の育成 ②「課題研究」やものづくりによる課題発見能力や問題解決能力の育成 ③「地域や海外の学校との連携」による社会観や国際感覚、言語能力の育成	(A) B C D (A) B C D (A) B C D	
11 成果・課題	○「課題研究」を履修した生徒は、1年次からの継続的な研究活動を通して主体的に研究を進めることで、専門的な知識や技術、プレゼンテーション能力と自信を獲得し探究意欲も向上している。論文を英訳する活動にも積極的に取り組んでおり、活動への意欲は高い。また論理的思考育成プログラムを中心に系統的な指導を行うことで、より論理的かつ客観的な活動や発表ができるようになった。 ○研究活動を通して、研究者や技術者を志す生徒や、課題研究の成果を深めることができる学部、学科へ進学を決める生徒が増加した。 ▲12年間の成果を検証し、課題を見出し、次の研究課題を設定せねばならない。		総合評価 (A) B C D
12 来年度に向けての改善方策案	・恵那高校SSH第Ⅲ期の最終年度である。12年間の成果を検証し、地域の基幹校として成果を普及できる開発課題を設定する必要がある。そのために次の4つについて議論を深め、結論を出して行く。 ①目的：SSH事業の目的を踏まえて、将来どのような人材を育成したいのか。また、高校3年間でどのような資質・能力を育成したいのか。 ②目標：目的を踏まえて、指定期間中に達成すべき具体的な目標は何か。 ③現状の分析と研究開発の仮説：現状を検証し、より具体的な育成すべき生徒像を明確に示し、研究期間に、どのような改善を行い、どのような仮説を立て、何について研究を行うか。 ④研究開発の内容・実施方法・検証評価：仮説を踏まえて、具体的にどのような実践を行うか。		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年2月9日

【意見・要望・評価等】

- ・ディベートの授業を見せていただき、生徒も先生も頑張っていると感じた。
- ・うまく理論立てをして、活発にディベートが進められており感心した。ディベートでは、生徒たちが中津川市及び恵那市のことをよく調べていた。リニア駅の建設のようなことをテーマとして取り上げ皆が考えることで、地元を意識する機会の一つとなる。こういう地域を考える機会を持ってほしい。
- ・負けた側の生徒たちが悔しそうにしており、そういう取り組みも大事だと感じた。